

H30 県外教育関係機関研修 報告座談会

平成30年10月29日（月）に、川崎小中学校へ視察研修した報告座談会が行われました。参加者は76名、全体研修報告のあと、8つのグループに分かれて座談会を行いました。

飯澤教育会長は、開会のあいさつで「川崎小は、話し合い活動を軸とした授業づくりの実践を通して、主体的・対話的で深い学びをめざし、子どもたちに汎用的な資質・能力を育成することをめざしている学校で、新しい学習指導要領実施に向けてとても参考になる実践を行っている学校でした。」

まさに、「百聞は一見に如かず」、参加者それぞれに、子どもや学校、先生方の生の姿、授業の実際に触れ、感銘を持ち、自らの日常の取組に重ねながら学んできました。その様子は、「上伊那教育137号」に執筆されています。

私は、教師が集い、語り合うことは、現在の学校現場においては、とても必要なことだと思います。本日の報告座談会では、先生方ご自身が今現在抱えている悩みや課題、実践の具体を語っていただき、目の前の子どものため、自分自身の今後の実践のために役立てていただけたらありがたいと思います。こういう機会に先生方同士が知り合いになり、今後も連携ができるようなつながりを作ってほしいと願います。」

と話されました。以下、当日の様子を写真を中心に報告します。



○ 全体研修報告

【西箕輪中 大槻織詠先生】



※川崎小で大事にしている話し合い活動のねらい授業での児童の姿を、具体的に分かりやすく発表してくれました。小さく手を挙げた女子の思い、周囲の受け止めの紹介が印象的でした。



① 共通性と一貫性のある実践

どの学年・どのクラスでも取り組む=4月から話し合いの授業ができる
担任・学級が変わっても学び方が同じ

② どの学校でもできる実践

話し合い活動の基礎基本「教師の秘伝」

③ どの先生にでもできる実践

子どもたちが「話し合い活動」の進め方を知っている
教師の出るところは限られている

④ 業務多忙化の解消

話し合い活動を通して学校が落ち着く（生徒指導等が減る）
共通の実践・悩み・よさの共有ができる →チーム学校

○ 分科会の様子・・・どの分科会も熱心に語り合う姿があり、

お互いの思いに触れることができました。



○分科会で話題になったキーワード

◇ **授業を通じた学級づくり**・・・安心して過ごせる集団になっているからこそ、全員挙手もできる。分からない仲間がいたときに、教えにいく仲間がいて、共に学んでいる。そういう営みが、安心して過ごせる集団、「分からない」と気軽に言える集団をつくっているのではないかと。授業を通して学級を育てていくことが大事。

◇ **学校全体として、同一步調で授業づくりに取り組むよさ**

土台となる部分（聴く姿勢、話し方、課題の吟味等）について学校全体として同一步調で取り組んでいる。一貫性という部分を大事にするところは参考にしたい。同時に、個々の教師の持ち味、児童生徒の状況に応じて柔軟に対応していくことも大事にして教師自身が学び合っていきたい。

最後に、林副会長が次のようにまとめのお話をされました。

「座談会では、視察参加者の皆さんからは、見てきたことを自分の思いも加えながらわかりやすく報告していただき、参会者の皆さんからはそれについての意見質問だけでなく、ご自分の実践とつなげながらお話いただきました。日頃自分が大事にしていることと川崎小中の実践につながるころはあるのか、今の自分の課題の糸口を川崎小中の実践に見出すことはできるのか、そして何よりも川崎小中の実践を支える教育理念はどのようなものか等、多くを語り合い、学び合うことができました。川崎小中に学びながら、改めて上伊那の教育を考え、そして日頃の自分のあり様を見つめ直す、そんな座談会になったのではないかと思います。この座談会で学ばれたことを、それぞれの明日からの実践に少しでも役立てていただけたら幸いです。」